

犬童球溪の音楽教育活動について



Keyword:

音楽科教育、歴史、作歌作品、犬童球溪



創造科学系
音楽教育講座 教授

研究分野： 音楽教育史

國府 華子 (KOU Hanako)

<https://researchmap.jp/read0152325>



研究概要

犬童球溪（本名：犬童信蔵：明治12～昭和18年）は、《旅愁》や《故郷の廃家》の作歌者であり、熊本師範学校を卒業したのち、東京音楽学校甲種師範科で学び、卒業後は全国各地の学校の音楽教師として勤めながら、多くの作歌作品を生み出した人物である。研究は大きく二つの視点から進めている。一つ目は、犬童球溪に関わる史料を整理し、アーカイブ化して保存すること。二つ目は、球溪と同時代に生み出された他の作歌作品もとりあげ、当時の作歌作品の音楽教育における歴史的意義について見直すことである。

犬童球溪の史料のアーカイブ化

熊本県人吉市にある犬童球溪記念館は、球溪の生家でもあり、ここに保存されている史料が多く存在する。さらに、本研究での史料は「もの」としての史料だけでなく、その人について「語られる史料」も残していくべきであると考え、新たな史料の発掘にも力を注いでいる。

作歌作品の分析

ここでの作歌作品とは、外国の曲に日本語の歌詞を付したものを指している。球溪がこのような作品を生み出した当時、日本人の作曲家がまだあまりいなかった時代であり、このような作歌作品が必要とされていた。

アピールポイント

犬童球溪の史料のアーカイブ化

様々な資料をアーカイブ化することによって、どこからでも史料にアクセスすることが可能となり、異なる領域や視点からの研究が進むと期待される。

作歌作品の分析

作歌作品が多く生み出されたのは、限定された時期であるが、当時生み出された膨大な作品は、現在の音楽作品への橋渡しの役割を果たしたのではないだろうか。さらに、球溪のように実際に音楽教師という立場で生み出された作品は、教育の場で活用されることを見据えていたと考えられる。分析を通して歴史的意義を明らかにしていく。

お問合せ先



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

財務・学術部 学術研究支援課 研究支援係

TEL：0566-26-2417

E-mail：renkei@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

